

東日本大震災と金華山



金華山のプロフィール

宮城県石巻市の太平洋上に浮かぶ島。

東日本大震災の震源に最も近かった。

面積 10, 28km² 最高標高 445m 島全体が山となっている。

島全体が黄金山神社の神域となっており地場の信仰の対象として有名である。

「恐山」「出羽三山」と並ぶ「奥州三霊場」に数えられる。

古くから信仰の対象となっており、1979年に南三陸金華山公園として指定がなされたため、手つかずの自然が多く残されている。

2013年5月24日発足の三陸復興国立公園（陸中海岸国立公園が改称）への編入が検討されている。



地震発生当時の状況

平成23年3月11日午後2時46分にM9.0の巨大地震発生。

島内には計41名がいたが人的被害はやけどを負った1名のみ。

11日当日夜、完全な停電・断水となりライフラインは絶たれ、通信手段も無く、下山不能となった41名が大広間や参集殿にて宿泊することとなりました。明治期の御社殿は無事であったが、灯籠が壊れたり、鳥居は根元から折れた。

地震復旧作業は困難を極め、手がつけられず身辺の片付けを行う程度にとどまった。

船は多量の漂流物、栈橋の地盤沈下のため操行困難であり、島は完全に孤立する状態となった。



倒壊した明治期の石鳥居



倒壊した拝殿前常夜燈（拝殿に向かって右側）（日本三大燈籠）



御社殿

その後と現在

しかし、復旧作業が進められている中、同年9月に起きた台風15号は、金華山・牡鹿半島においても直撃し、極めて甚大な被害を残すこととなった。

現在もボランティアの方々と協力して、「金華山支援プロジェクト」と題して大規模なボランティア活動を計画することとなりました。

このように復興も進めているが、完全復活にはまだ2年かかると言われている。

被害総額は台風被害もあり、数億円とも言われている。

現在に未だ境内いたるところに見える被害の修復に追われている。